

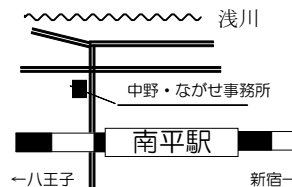


日本共産党市議会議員  
中野あきと

# みどりと清流



中野あきと・ながせ真由美事務所ニュース 発行責任者 小山敏正  
〒191-0041 日野市南平6-25-1 (南平ビル1階)  
(電話・FAX 042-599-3350)



生活相談など  
お気軽に  
お立ち寄り下さい  
中野・ながせ事務所

<https://midoritoseiryu.skr.jp>

## 底が見えない物価高から 命とくらしを守るために

党暮らし・子育て支援室長 ながせ真由美

今、地域を歩いて、皆さんからお話を伺っています。

「物価高で暮らしが大変」と話題になることが多く、高齢者の皆さんから「年金だけでは暮らしていけない」と切実な声が上がっています。

一方で現役世代の皆さんから「給料が上がらない」「子供にかかるお金は節約できないから親が我慢している」という悲痛な声も上がっています。

物価高に賃金や年金が追いついていない事実が見えてきます。

世代間を問わず誰もが大変ですが、とりわけ子どもたち、高齢者や障害者の方にそのしわ寄せがいつていきます。ケアする人がケアされない状況も問題です。

今、政治がやらなくてはいけないことは、底が見えない物価高から市民の皆さんの命と暮らしを守ることです。

さて、日野市は「お金がない、お金がない」と言っていますが、黒字額は過去最高、何にでも使える貯金額は61億円です。私はこれを財源として、日野市でできる緊急物価高騰対策をやりたいと考えています。

◎電気・ガス代補助や下水道使用料の引き下げで家計を直接支援します。

◎経済政策として、公契約条例による市内の事業の発注単価の引

き上げで賃上げを行います。

◎国保税などの社会保障費の負担軽減で消費にまわるようにします。

◎介護・保育・障害福祉の現場は人手不足で危機的です。ここに財政支援と処遇改善を行います。

◎学校給食の無償化に続き、学用品費、修学旅行などの移動教室の負担軽減・ゼロを目指し、子どもたちの「衣食住」の権利を守ります。

税金を市民の皆さんの「暮らし」の予算にまわしていくことで十分にできます。「暮らしも子育ても全力で応援」する市政に転換するために頑張っています。

どうぞ、よろしく願います。

地域の中でこつこつと  
連日奮闘中の

ながせ真由美さん  
(長瀬)



### 中野・ながせ事務所が 日野市に4項目の要請

11月26日、中野あきと市議、ながせ真由美さん、南平地域の後援会員など7人が参加し、日野市に①浅川土手階段の補修、②9丁目の宅地開発について、③高幡不動駅周辺にベンチを設置して欲しい、④南平7丁目付近の用水転落防止ガードレール設置についての4項目の要請をしました。

日野市からは生活安全課など3人が出席し、①浅川土手階段はまもなく3カ所終了する、②工事車両の運

行については事業者 zu 徹底する、③駅前古いベンチは修繕予定、④用水にはオレンジポールを設置し注意喚起するなど、要請した4項目のそれぞれに回答がありました。

事務所はこれからも地域のみなさんから寄せられた声を元に、日野市に要請を行っていきます。



ながせ真由美さん

中野あきと市議▲

### 短信

「便利で助かるよ」と、南平2丁目の丘陵地に自宅を持つ知人が言っ

た▼都心に所用があつて、知人が高幡不動駅に下車したのは午後8時過ぎ。この時間帯のミニバス北野街道循環路線は10分間隔の運行である。お陰で僅かな時間で自宅に戻れたそうだ▼高幡不動駅から豊田駅北口に至るミニバス南平路線。途中の北野街道口までは、鹿島台、みなみが丘、南平台など、丘陵地住民の貴重な足となっている▼利用率も高くバスはいつも満員。座り損ねた高齢者は、つり革につかまりバスの揺れに耐えなければならぬ▼2016年に北野街道口止まりの便が循環路線となった。その数年前、増便を求める住民の運動が起こり、交渉の中で循環化を求めた。当事務所も請願署名集めに協力、中野あきと市議は対市交渉に立ち会った▼「循環路線」と言っても当初は、北野街道をノンストップで高幡不動駅に戻る利用価値の低いものだった▼住民は「途中に停留所を」と、ねばり強く交渉。19年に「南平4丁目(後に場所を移動して南平体育館に変更)」のバス停が誕生更に「南平体育館入口」「禅寺丸公園」の停留所も実現した▼「助かるよ」と言う知人。互いに年を重ねた今、その実感はより深い。来年2月は市議会議員選挙。進行する高齢化社会。日本共産党は「高騰する物価対策」と共に「ミニバスなど公共交通の拡充」を重点政策に掲げ、全力を上げてたたかう。(K)

## ◆この4年間◆

# 共産党市議団がはたした 役割と主な実績について

市議会議員 中野あきと

―学校給食の無償化実現―  
市民運動、清水都議とスクラム組んで  
実現に道開く！

学校給食の無償化は、住民の皆さんの粘り強い署名運動とともに、清水とし子都議と連携して党市議団が市議会で提案を重ねる中、実現の道が開かれました。

私たち党市議団は、都議会で無償化の論戦を繰り返す党都議団・清水都議から時々の都の動向などを系統的に情報提供を受け、「意見書案」の提案、代表質問、一般質問などで取り上げてきました。

市民の無償化を求める請願に、与党3会派が採択を拒み「継続扱い」を続ける中、私たちは攻勢的論戦を展開。ついに市政も実現に向けて動きました。

その直前に与党3会派は、市長に「無償化へ向けた要望書」を提出したとのこと。さすがにこの動きには「方向が決まって要望書を出すなんて」「実績のアリバイづくり」との声が上がりました。

―18歳までの医療費の完全無償化実現―  
「財政非常事態」を盾に背を向ける与党  
繰り返しの提案で道を開いた党市議団

2020年3月議会に保護者から、子どもの医療費無料化の「所得制限撤廃」を求める請願が提出されました。ところが与党3会派は「財政非常事態宣言」などを理由に反対し、不採択としました。

私たち党市議団は、清水都議からの東京都や多摩地域の動きを把握しながら、一般質問、意見書案の提案、代表質問などで完全無償化を求めてきました。そうした中で23年6月議会に市長が18歳

までの医療費の完全無料化の予算を提案、実現の運びとなりました。

与党3会派はその直前に「完全無償化を求める緊急要望書」を提出したとのことでした。「何のための議会、議員なのか？」という疑問の声が上がるのも当然です。

―学校図書館への司書配置の実現―  
20年来の住民団体の粘りの運動  
事態を打開した党市議団の質問

この4年間、私たち党市議団は、専門家や他市の司書からの聞き取り視察調査を重ね、一般質問や代表質問、予算・決算委員会で繰り返し取り上げるなど、司書配置の重要性を訴え続けてきました。「学校図書館をもっとよくする会」の20年来の粘り強い運動と力を合わせて実現へとこぎつけたのです。

ただ、小中学校全校配置とはいっても、1人司書が2校掛け持ちする形です。文字通りの1人1校配置へ、引き続き取り組んでいるところです。

なお、この事業でも、市が司書配置の方向を打ち出す直前に、これまでほとんど取り上げてこなかった与党議員が一般質問で取り上げました。

―ボロボロの生活道路の補修―  
党市議団の連続質問で議会も変化  
道路補修予算の大幅増額が実現

破損が激しい市内の生活道路。住民の方々の告発や要望を受け私たち党市議団は、21年9月、12月議会、翌22年3月議会と連続的に質問し「早急な補修と予算の抜本的拡充」を提案。市も、これを正面から受け止め、予算の緊急増額を実施しました。

この間の道路改修予算は、1億5千万円、2億円へと増額され、来年度からはさらに年間4億円へと倍増される予定です。

なお、こうした中で、他党派議員からの質問も行われてきましたが、一方で、生活道路予算の更なる充実を求めた市民の請願（22年9月議会）には、与党3会派は反対し不採択としました。

## 駅周辺、バス停、 街角などに ベンチの設置を



共産党市議団は、9月市議会の決算質疑で、安心して出かけられるまちづくりを方針の一つの柱として、駅周辺・バス停・街角などのベンチの設置を推進するよう提案しました。高齢化が急速に進む中、また坂道の多い日野のまちにおいて、ベンチを設置してほしいという要望はたいへん切実です。今後、設置実現まで全力をあげます。

## 〈投稿〉 選挙の公営揭示板 を増やして

私のところに「公営揭示板を増やして」という要望がありました。南平2丁目の南平台住宅は大きな住宅地ですが、1個所も「公営揭示板」がありません。調べる、そのとおりです。

私はミニバス「北野街道口」停留所と、もう1個所、住宅地の上部に「公営揭示板」の設置を、市の選挙管理委員会に求めました。

(南平 SY)



▲11月16日 恒例の北川原公園まつりが行われ、好天にめぐまれ、子ども連れの市民で賑わいました

北川原公園まつりに1700人

## 【無料法律相談日】2026年 1月

■ 8日（木）午後1時～3時 市役所6階共産党控室  
〈申し込み〉わたなべ・清水事務所 042-582-1042

## 《連載》不正問題を2度と繰り返さないために

### 市政で起こったこと、そしてこれから [第12回] 「河内王国」の大罪～ たかはた保育園の民営化事業をめぐる② 中野あきと

連載第8回で紹介した、たかはた保育園の民営化事業をめぐる不正問題に戻ります。

新たな保育園の建設費や進入道路拡幅整備費、家賃補助などに総額6億円もの助成が行われた背景に、河内久男氏との存在と異常な関与があったことが、市による関係職員へのヒアリングで明らかになりました。以下、市が明らかにした生々しい職員証言を紹介します。

・「当時の保育課職員は、部長も含め、ただお金を出すだけという認識しかなかったのではないか」「河内さんからあそこにある書類をもらえと言われてやっていた。見てもわからない中で妥当性を判断するしかない状況。最終的には払うしかないのだという認識だった」（保育課長補佐）

- ・ 拡幅用地の補助金の算出について「言われたままに入れた。河内さんからのメモを打ったのだと思う」「支出するだけ。中身はわからないし交渉の経過もタッチしていない」（保育課長補佐）
- ・ 2億4000万円の前家賃補助について「発案は河内氏。河内氏の提案について市が了承し決定した」（当時課長）
- ・ 内装費の追加工事について「開園の2ヶ月ほど前、河内氏より工事が遅れている。業者に泣いてくれという額ではなく追加で補助金が必要とのこと」「河内氏がどうしても必要なものだとしてやることにした」（当時課長）
- ・ 補助金が大きくなっていることに「事業規模がどんどん膨らみ前例のない金額となっていたので、このままいいのか、部長に相談したが、河内氏がやれということなのでこれで進めるしかない」との答えがあった」（当時課長）
- ・ 河内氏への認識を問われ「絶対的な存在。河内氏の考えに反対、修正するなどは絶対にできない」（当時課長）（続く）

